校内研修「道徳科の授業づくり」のミニ研修コンテンツ活用事例

１　読み物教材　中学校①「二通の手紙」

２　参　加　者　中学校教職員12名　　空知教育センター職員６名

３　研修形態　グループ（１グループ３～４人）

□　コンテンツを活用した際の研修の成果など

|  |  |
| --- | --- |
| ①　演習で出された中心発問（○）  設定の理由（・） | ○　あなただったらどちらの手紙を大切にしたいですか。  　・「家族からの手紙」と「懲戒処分」のどちらを大切にしたいか意思表示させ、その理由も考えさせるため。その上で、「家族からの手紙」の裏には「優しさ」があるが、「懲戒処分」の裏にはどんな言葉が当てはまるかを考えさせることで、ねらいに迫らせるため。（例：社会のルールを守る、命を守る、生活を守るなど） |
| ②　受講者の声（○） | ○　パワーポイントの資料について、学習指導要領の要点が整理されており、分かりやすかった。  ○　発問を考え、交流することで、教材文に対する様々なアプローチ方法があることが理解できた。 |
| ③　成　果（○） | ○　校内研修で取り組みやすいコンテンツだった。  ○　発問づくりの演習では、考えられる発問が複数あり、様々な視点から授業づくりが可能であることを確認できた。  ○　１通目の手紙からスタートすることで、後から葛藤を生むきっかけになっていると感じた。  ○　教材文を分割して提示する工夫が効果的だと感じた。  ○　ホワイトボードに考えを書くことで全体での共有化を図ることができた。 |
| ④　課　題（●）  改善策（・） | ●　元さんの優しさを認める生徒がいる中で、「なぜきまりを守ることが必要なのでしょうか。」と聞くのは、その立場の考えが切り捨てられてしまうのではないか。  ・「なぜきまりを守ることが必要なのでしょうか。」という発問の前に、「きまりを守ることは大切」という押さえを全体で確認する場面を設けることが考えられる。 |

□　道徳科の実践例（中学校①）板書例

